

## いきいきとあrawす子どもを育てる図画工作科学習指導 ～発想を広げる手立てを通して～

### 要約

今日、私たちを取り巻く社会は、環境問題、情報化社会、高齢社会など変化の激しい時代にあって複雑で多様な価値観や構造を持つ社会だといえる。このような複雑で多様な社会の中で、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になってきている。

図画工作科は、表現や鑑賞の活動を通して、自分の思いや願いをもって想像力などをはたらかせて具体化し、よさを発揮しながらよりよい生き方をめざしていく教科である。子どもたちの本来備わっている資質や能力を一層伸ばし、つくりだす喜びを味わい、よさや美しさなどの価値あるものに関心を持って、主体的にかかわっていくことは、「生きる力」につながるものであると考える。

そこで、子どもたちが、表現や鑑賞の活動を通して、「あrawしたい」という気持ちをもって進んで考えたり判断したりして、造形活動をすることができる資質や能力を培っていくことが重要だと考え、本研究主題を設定し、次の2つの内容を重点に研究を進めることにした。

#### ① 発想を広げる造形活動や手立ての工夫

- ・「ふれる」段階 参考資料の提示 題材との出会わせ方の工夫
- ・「わきたつ」段階 材料や表現方法、用具、資料の提示
- ・「つくりだす」段階 場の工夫 用具の工夫
- ・「ふりかえる」段階 作品の鑑賞 言葉による賞賛

#### ② 鑑賞活動を取り入れる工夫

- ・「ふれる」段階 参考資料や教師の提示作品の鑑賞活動
- ・「わきたつ」段階 材料や場・対象の鑑賞活動
- ・「つくりだす」段階 製作途中の鑑賞活動
- ・「ふりかえる」段階 自他の作品の鑑賞活動

実践の結果、以下のような成果（○）と課題（●）を得た。

- 発想を広げる手立ての工夫を行うことで、「やってみよう」という意欲を高めたり、どんどん思いつきながらあrawしたりすることができた。
- 鑑賞活動の工夫を行うことで、他者との交流で新たな発想が生まれたり、高めたり、表現の喜びを味わいながら造形活動することができた。
- 絵のお話を書かせたが、完成途中のお話を書く子はほとんどおらず、完成した絵のお話を書く子が多かった。途中も大事な発想が広がっているのだが、作品として残らないのでどう見取っていくかが課題である。
- 鑑賞の際には、作品のどんなよさを見つけたらいいかを明確に伝えていなかったのので、鑑賞の視点をもって作品を見ていく必要があった。

**キーワード** 各段階における発想を広げる手立て 鑑賞活動の工夫

## 1. 主題設定の理由

### (1) 社会的要請・現代教育の動向から

今日、私たちを取り巻く社会は、環境問題、情報化社会、高齢社会など変化の激しい時代にあって複雑で多様な価値観や構造を持つ社会だといえる。このような複雑で多様な社会の中で、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になってきている。

中教審答申においても、そのような社会において、子どもたちが自分らしさを発揮して、心豊かに、主体的に、よりよく生きていくことができるようにするためには、自分なりの考え方や生き方をもつとともに、進んで考えたり、判断したり、表現したり行動したりすることができる資質や能力を育てることを目指す教育の実現が一層強く求められている。

図画工作科は、表現や鑑賞の活動を通して、自分の思いや願いをもって想像力などをはたらかせて具体化し、よさを発揮しながらよりよい生き方をめざしていく教科である。子どもたちの本来備わっている資質や能力を一層伸ばし、つくりだす喜びを味わい、よさや美しさなどの価値あるものに関心を持って、主体的にかかわっていくことは、「生きる力」につながるものであると考える。

そこで、子どもたちが、表現や鑑賞の活動を通して、「あらわしたい」という気持ちをもって進んで考えたり判断したりして、造形活動をすることができる資質や能力を培っていくことが重要だと考え、本研究主題を設定した。

### (2) 学習指導要領のねらいから

学習指導要領の図画工作科の基本方針として、次の点が示された。

図画工作科については、想像することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的に関わっていく態度をはぐくむことなどを重視している。

- ・ 育成すべき資質や能力と学習内容との関係を明確にするとともに、小学校図画工作科、中学校美術科において共通に働く資質や能力を整理し、〔共通事項〕として示す。
- ・ 形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視する。
- ・ 感じ取る力や思考する力をより一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評しあったりするなど、鑑賞の指導を重視する。
- ・ 我が国の美術や文化の指導の充実を図り、美術文化に関心をもって生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむ。

図画工作科については、想像することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的に関わっていく態度をはぐくむことなどを重視している。

### (3) 児童の実態と指導上の反省から

本学級の子どもたちの多くは絵に表すことが好きである。また、子どもたちは、自分の表現に対する思いや願いをもち、自分なりに表したいという気持ちを持っている。しかし、

これまでの指導法の中で、発想に関する手立てや表現方法を支援できないことから、表したいことが見つからなかったり、発想が広がらなかったりしたことが反省点として挙げられる。

そこで、子どもの実態を見取り、活動全体を通じて、指導の手立てを工夫し改善する必要がある。子どもが自分の感性や想像力を働かせて発想をする、イメージをもつなどの造形活動ができるようにすることである。また、子どもの興味や関心を高め、発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの子どもの持てる資質や能力を見取り、その育成につながるよう指導の改善を行うことが大事である。

そこで、子どもたちが、自らの思いや願いをいきいきと表し続け、つくりだす喜びを味わうようにするために、学習過程の各段階における発想を広げるための支援の工夫を行っていくことは意義深いと考える。

## 2. 主題・副主題の意味

### (1) 主題の意味

#### ○「いきいきとあらわす」とは

豊かな題材と出会ったときに生まれてくる表現欲求から、子どもが「かきたい」「表したい」という主体的な思いをもち、発想と表現活動を繰り返しながら表すことであると考える。

### (2) 副主題の意味

#### ○「発想」とは

対象とかかわる中で生まれてくる思いや考え、思い付きのことである。それは、表現に取りかかるときだけではなく、表現に入っても表現しながら発想していき、発想しながら表現していくという絡み合った過程をとる。

#### ○「発想を広げる手立ての工夫」とは

学習過程の各段階の中で、子どもの意欲を喚起し、自ら表したいという気持ちや学習過程の各段階において次々に発想を広げていくことのできる教師の支援や指導の工夫のことである。

## 3. 研究の目標

いきいきとあらわすことのできる子どもを育てるために、造形活動の中で発想を広げられる手立てを取り入れ、発想を豊かにする授業の在り方を研究する。

## 4. 研究の仮説

図画工作科の学習活動の各段階において、効果的に以下のように手立てを工夫すれば、いきいきとあらわすことのできる子どもが育つであろう。

(1) 発想を広げる造形活動や手立ての工夫を行う。

(2) 鑑賞活動を取り入れる工夫を行う。

## 5. 研究の具体的構想

### ①発想を広げる手立ての工夫を行う

段階	ねらい	子どもの発想	発想を広げる手立ての工夫
ふれる	○ おどろきある題材との出会い	すごいなあ おもしろそうだな やってみたいな かきたいな つくりたいな	○ 題材・題材名の工夫 ○ 題材との出会わせ方の工夫 ○ 参考資料の提示
わきたつ	○ 材料・用具にふれ、感じた思いの表出	こんなふうにかきたいな こんなふうにつくりたいな	○ 材料や用具の準備や使い方の工夫 ○ お話カード ○ ペア活動
つくりだす	○ 新たな表現の工夫 ○ 交流による新たな発想の気付き	つくってみよう この方法でやってみよう おもしろくなってきたよ	○ 言葉がけの工夫 ○ 場の工夫・用具の使い方の工夫
ふりかえる	○ 思いの実現の実感と次への意欲 ○ 自他の認め合い	いいのができたよ ここがうまくできたよ たのしかったなあ	○ 本題材で身についた資質や能力の見取りと言葉がけ

### ②鑑賞活動を取り入れる工夫を行う

学習活動の各段階で以下のような鑑賞活動を位置づける。

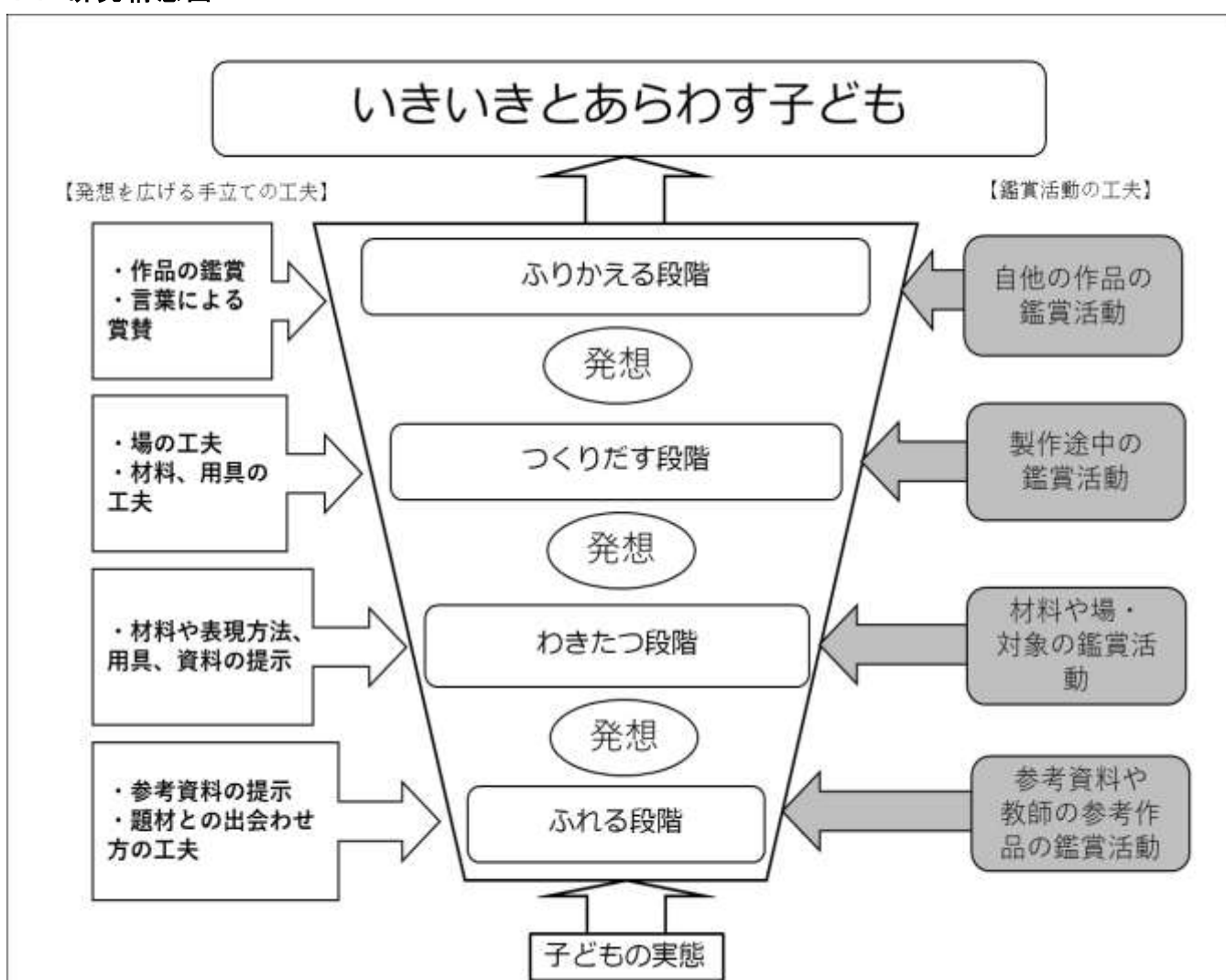
- ・「ふれる」段階では、対象から発想を生み出し、材料体験等から感じたことを出し合う活動を行う。そのため、参考資料や教師の参考作品の鑑賞活動を行う。また、教師の模範を通して子どもたちは「きれいだなあ」「やってみたい」「自分にもできそうだな」と意欲関心を高めたり、題材の特徴をつかんだり、活動の見通しがもてたりする。
- ・「わきたつ」段階では、思いを基に、自分らしい発想をして自らのイメージを持ち、交流する活動を行う。そのため、材料や場・対象の鑑賞活動を行う。そのことで、子どもたちは、「これを試してみよう」「この色や形で〇〇を表そう」「この道具を使って〇〇の世界をあらわしてみよう」と色や形のあらわしたいものの発想が生まれる。
- ・「つくりだす」段階では、自分なりの表現を工夫しながら、他者との交流で新たな発想へと高める活動を行う。そのため、製作途中の鑑賞活動を行う。そのことで、子どもたちは、「こんな方法もあるぞ。やってみよう」「もっとよくするには〇〇くんの工夫をするといいいかな」と主題に向けてさらなる発想を広げる。
- ・「ふりかえる」段階では、自他の作品を認め合い、表現の喜びを味わいながら次時への意欲をもつ活動を行う。そのため、自他の作品の鑑賞活動を行う。そのことで、子どもたちは、「うまく表すことができた」「〇〇くんの作品は、こんな思いであらわしているな」

「また表してみたいな」と自他の表現のよさを味わうとともに、達成感や成就感を味わうことができる。

## 6. 研究の計画

	研究内容		研究内容
5月	研究主題の設定	10月	検証授業①
6月	研究主題の設定	11月	検証授業②
7月	研究の構想	12月	成果と課題
8月	教材研究	1月	研究のまとめ
9月	教材研究	2月	研究報告 論文作成






## 7. 研究構想図



## 8. 研究の実際

### 【実践1】

- (1) 題材名 やってみよう ゆめのたしざん
- (2) ねらい 「ゆめのたしざん」のアイデアをもとに想像をふくらませながら、「じぶんのゆめのたしざん」をかくことができる。
- (3) 展開 (全4時間)

	学 習 活 動	支援の考察（○成果、●課題）
ふれる	<p>1 教師の参考作品を鑑賞して、本題材の見通しを持った。(15分)</p> <p>(1) 教師の参考作品を見て、ゆめのたしざんと一緒に考えた。</p> <p>(2) 教科書の参考作品から、ゆめのたしざんの仕方を知った。</p>	<p>○ 参考作品(写真1)により活動の見通しを持たせ、「ゆめのたしざん」をしていきたいという意欲を高めさせることができた。</p>  <p>【写真1 参考作品】</p>
わきたつ	<p>2 お話カードに何とどんなことをするか、お話を書いた。(30分)</p> <p>(1) したこと見たことから、できたらいいなと思うゆめを足し合わせてお話を作った。</p>  <p>【写真2 ペア交流の様子】</p>	<p>○ 形や色などを考え、お話を書いている子どもを賞賛することができた。</p> <p>○ アイデアをカードに書いて、黒板に貼っていたり、ペアで交流したりすることで、友だちのお話を手がかりにどの子どももお話をつくることができた。(写真2)</p>
つくりだす	<p>3 あらわしたいことをふくらませながらかいた。</p> <p>(1) クレパスなどの描材でかいた。(45分)</p>  <p>【写真3 班での活動】</p>  <p>【写真4 スケッチ】</p>  <p>【写真5 製作途中での鑑賞活動】</p>	<p>● クレパスでかきはじめることができたが、クレパスの使い方を提示していなかったので、思いをうまくあらわせない子どもがいた。</p> <p>○ 班での活動を仕組んだことで、製作しながら鑑賞することができた。(写真3)</p> <p>○ 思いがあるが、絵にあらわせない子には、友だちのスケッチを参考にさせた。</p> <p>(写真4)</p> <p>○ 製作途中の鑑賞活動をすることで、お話に広がりがあった作品となった。(写真5)</p> <p>● 鑑賞の際に、造形的な楽しさや形や色に視点を当てて交流させるとよかった。</p>


ふりかえる	<p>(2) 共同絵の具を使ってローラーや筆で彩色した。(60分)</p> <p>4 かいた絵を紹介し、鑑賞会をした。(30分)</p> <p>(1) 絵のお話を書いた。</p> <p>(2) 友だちや自分の作品のよさを見つける鑑賞会をした。</p>	<p>● ローラーや筆で作業できる場所の設定が不十分であった。</p> <p>○ ペアでお互いの作品のいいところをカードに書いて交流することができた。</p>
-------	---	---

【実践2】

(1) 題材名 めざせ ペったんめいじん

(2) ねらい 絵の具を工夫して伸ばして写し取る活動を通して、写して表すこと(モノプリント)に興味や関心をもったり、絵の具の伸ばし方や写し方を工夫して表したりすることができる。

(3) 展開

	学習活動の実際	支援の考察 (○成果、●課題)		
ふれる	<p>1 絵の具の感触を楽しみながら、写し方を楽しんだり工夫したりして、もようづくりをした。(30分)</p> <p>(1) 教師の模範や参考作品を鑑賞し、興味や関心をもった。</p>  <p>【写真6 教師の参考作品】</p>	<p>○ 題材名の工夫をしたことで、子どもが興味関心をもって授業に臨めた。</p> <p>○ 模範を見せることで、子どもが活動の見通しをもって活動への意欲を高めることができた。</p> <p>○ 写し取った形が何に見えるか鑑賞することで、いろいろなものに見えることに気付くことができた。(写真6)</p>		
わきたつ	<p>(2) 絵の具のさわり心地を楽しみながらモノプリントをした。(60分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding-right: 10px;"> <p style="text-align: center;">あ</p> <p>①がようしをえらぶ</p> <p>②がようしをペアにわたす</p> <p>③えのぐをえらぶ</p> <p>④えのぐを○のなか</p> <p>⑤えのぐをのぼす</p> <p>⑥もようをつける</p> <p>⑦ペアにうつしとる</p> <p>⑧てをあらう</p> <p>⑨ふせんをはって、ゆかにおく</p> <p>⑩ぞうきんをぬらしてシートをふく</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">い</p> <p>①がようしをうけとる</p> <p>②うつしとるばしょ</p> <p>③ばれんでやさしく</p> <p>④ぞうきんをぬらしてシートをふく</p> </td> </tr> </table> </div> <p>【資料1 モノプリントの手順表】</p>	<p style="text-align: center;">あ</p> <p>①がようしをえらぶ</p> <p>②がようしをペアにわたす</p> <p>③えのぐをえらぶ</p> <p>④えのぐを○のなか</p> <p>⑤えのぐをのぼす</p> <p>⑥もようをつける</p> <p>⑦ペアにうつしとる</p> <p>⑧てをあらう</p> <p>⑨ふせんをはって、ゆかにおく</p> <p>⑩ぞうきんをぬらしてシートをふく</p>	<p style="text-align: center;">い</p> <p>①がようしをうけとる</p> <p>②うつしとるばしょ</p> <p>③ばれんでやさしく</p> <p>④ぞうきんをぬらしてシートをふく</p>	<p>○ 「くふうして伸ばす」ことを模範しながら見せることで、活動の広がりを持った。</p> <p>○ 絵の具の感触を楽しみながら、手やヘラで伸ばし、自分のイメージをもって活動することができた。</p> <p>○ 色画用紙を使うことで、絵の具の色との組み合わせを考えながら活動できた。</p> <p>○ 手順を示すことで、やり方の見通しが持て、どの子もモノプリントであらわすことができた。(資料1)</p>
<p style="text-align: center;">あ</p> <p>①がようしをえらぶ</p> <p>②がようしをペアにわたす</p> <p>③えのぐをえらぶ</p> <p>④えのぐを○のなか</p> <p>⑤えのぐをのぼす</p> <p>⑥もようをつける</p> <p>⑦ペアにうつしとる</p> <p>⑧てをあらう</p> <p>⑨ふせんをはって、ゆかにおく</p> <p>⑩ぞうきんをぬらしてシートをふく</p>	<p style="text-align: center;">い</p> <p>①がようしをうけとる</p> <p>②うつしとるばしょ</p> <p>③ばれんでやさしく</p> <p>④ぞうきんをぬらしてシートをふく</p>			



【写真7 ペアでの活動】

○ ペアでの活動を仕組むことで、お互いのよさに気付いたり、自分のイメージを高めたりすることができた。

(写真7)

○ 4人グループにすることで、ペアの友だち以外の子に対しても、興味関心をもって鑑賞活動ができた。

つくりだす

2 見えた模様や形から、お話を想像して絵にあらわした。(60分)

(1) クレパス等であらわした。



【写真8 友だちと交流しながらあらわしている姿】

(2)身の回りの材料を使ってスタンプングをした。

○ 絵の具を写し取った形から、お話を広げ、楽しい世界が表せるように、参考作品を鑑賞し見通しを持たせることができた。

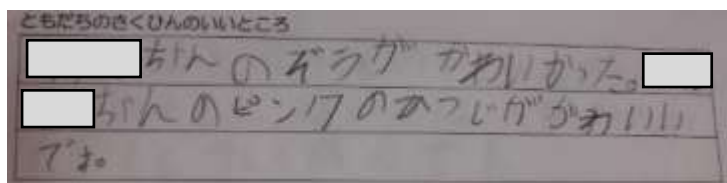
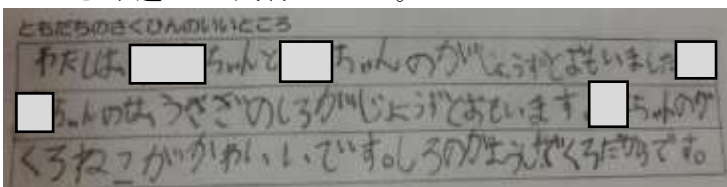
○ 友だちの作品に対してたずねたり、答えたりすることで思いを広げて絵にあらわすことができた。(写真8)

○ グループ活動をする中で、自分の絵のお話をしながら鑑賞活動ができた。

ふりかえる

3 できた作品を鑑賞した。(30分)

(1) できた作品のお話を紹介し合い、それぞれのよさや違いに気付かせた。



【資料2 子どものノートより】

○ お互いの作品を見合うことで、活動に充実感や満足感をもつことができた。

友だちのいいところを見つけた 21人  
見つけられなかった 3人

● 友だちの作品の形や色に着目させてよさを鑑賞させたかったが、形や色に着目した子どもが少なかった。学習カードの工夫が必要である。

(資料2)

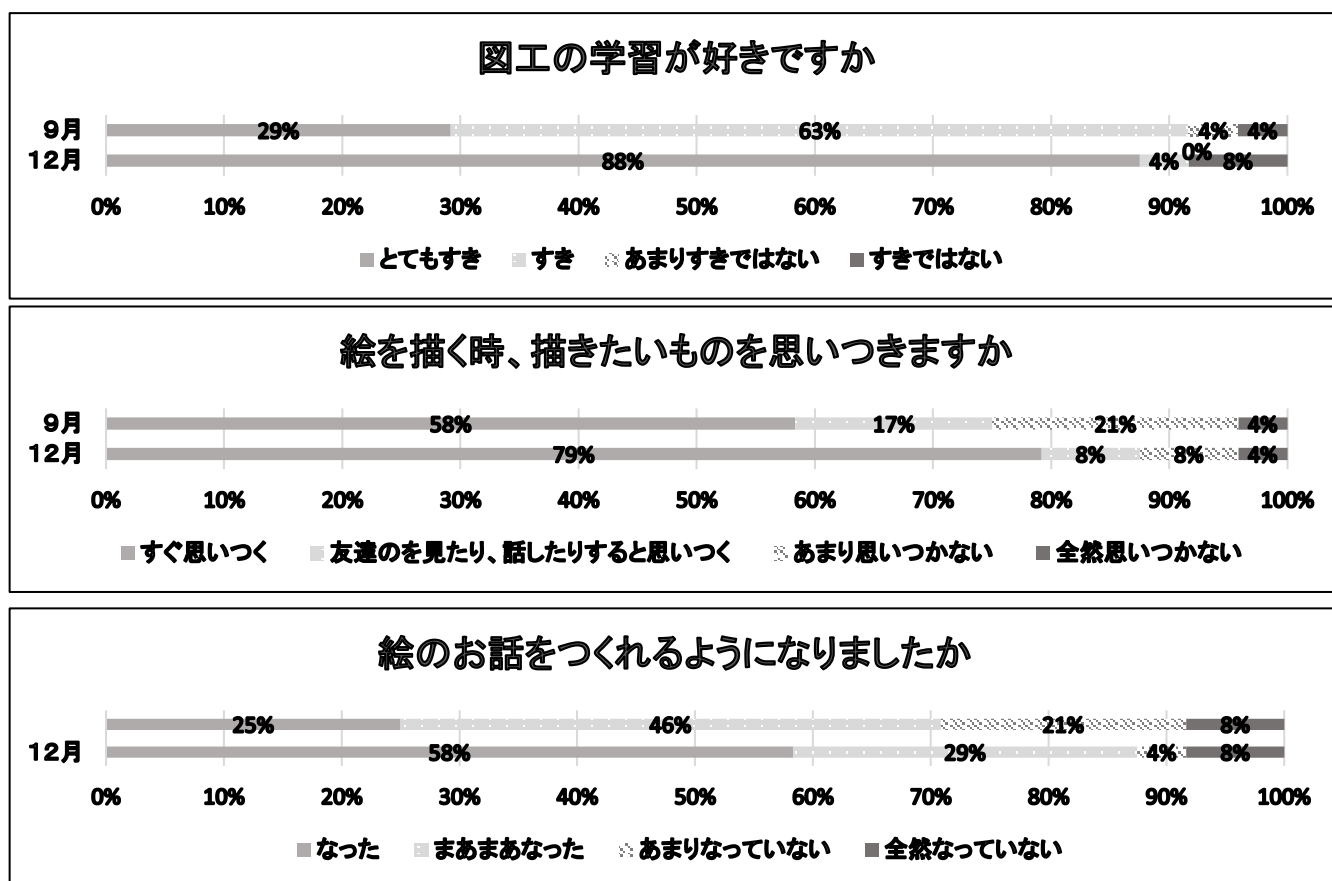


## 9. 研究の成果と課題

### (1) アンケートの結果より

事前アンケートと同じアンケートをとると、(資料3)の結果が出た。「図工の学習が好きですか」に関しては、「とても好き」と答えた子どもが29%から88%に増えていることが分かる。「絵を描く時に描きたいものを思いつきますか」に関しては、「すぐに思いつく」と答えた子どもが58%から79%まで増えている。これは、研究を通して造形的活動に関心を高め、発想する力が育ってきたのではないかと考えられる。

また、「絵のお話をつくれるようになりましたか」の問いでは、つくれるようになった子どもが25%から58%に増加した。この結果より、子どもの想像が広がっていったと考えられる。



【資料3 図工学習についてのアンケート】

### (2) 子どもの姿から

絵に描かれる対象物の数を比べてみると、「やってみよう ゆめのたしざん」では、22人の子どもが3つ以上の対象物を描いており、「めざせ ペったんめいじん」では、16人の子どもが5つ以上の対象物を描いていた。このことから、発想が広がり、あらわしたい内容が膨らんでいったと考えられる。

また、絵のお話に書かれている内容についても、文が増えたり内容もより詳しくなっていたりする子どもが増加していた。学習中の子どもの様子を見ていても、あらわし始めた友だちを見てヒントを得たりアイデアを思いついたりして、以前ほど「わからん」「かけん」と手が止まる子が減ってきている。

1 学期 クルクルぐるーり



1 0 月 やってみよう ゆめのたしざん



1 1 月 めざせ ペったんめいじん



えのおはなし ( )

てんてんはあめだよ  
くるくるでてんてんがついているの  
わかいみたい。こわぐるぐるの  
らんどだよ。いっは「いぐるぐるか  
がけたよ。みどりのぐるぐるわ  
たいようたあみすいときいろに  
まぎっているのはまぎってきれいだよ  
ぐるぐるらんど」はすき。

えのおはなし ( )

めたしとうさぎとねこがきょうはした。い  
たりちうがとんてんてんしてまた  
りかきてをれて「はははをうて  
るし。つきはおいハリをしてきてま  
たかたれん。は」をうてまたかたも  
るかたをうていいな。

えのおはなし ( )

わたしとねことうさぎのははしでねこ  
わたしかねこのうえにのりねこさんか  
いけを見つけてさかえをとてたべました  
そのあととうさぎがいらはいきました。  
とりさんはあたまのよりにのりました。いねは  
はねこさんのほかにのりました。あうもま  
した。みんなでおにこをのりかたれん  
はましました。のりたでおねおにこはあ  
まておいでも。

#### 【資料4 絵と絵のお話】

資料4は、すべて同じ子どもの絵である。左端の「クルクルぐるーり」が、初めて絵のお話を書いた時のものである。実践を重ねるにつれ、絵のお話が広がっていった様子が見られる。「これは何々」といった文だけであったのが、「どこに何がいて、私と何をしているか、それから誰が増えたのか」といった細かい物語の広がりが見られている。(資料4)

#### (3) 研究の成果と課題

- 発想を広げる手立ての工夫を行うことで、「やってみたい」という意欲を高めたり、どんどん思いつきながらあらわしたりすることができた。
- 鑑賞活動の工夫を行うことで、他者との交流で新たな発想が生まれたり、高めたり、表現の喜びを味わいながら造形活動することができた。
- 絵のお話を書かせたが、完成途中のお話を書く子はほとんどおらず、完成した絵のお話を書く子が多かった。途中も大事な発想が広がっているのだが、作品として残らないのでどう見取っていくかが課題である。
- 鑑賞の際には、作品のどんなよさを見つけたらいいかを明確に伝えていなかったの  
で、鑑賞の視点をもって作品を見ていく必要があった。

#### 《参考文献》

- ・ 文部科学省 平成20年 小学校学習指導要領解説 図画工作編
- ・ 若元澄男 平成12年 図画工作科・美術科 重要用語300の基礎